

WOODPRO

のサステイナブル

な取り組み



WOODPRO

始まりは1999年...

やっと時代が追いついて来た



History of ASHIBAITA

「足場板」は、そもそも工事現場で作業員さんが乗っかる板のこと。今や金属製のものが主流ですが、高速道路や橋梁・神社仏閣等の建設現場では、現在も杉の足場板が使われています。



杉足場板は平均して3年～5年、現場の過酷な条件の下で利用されますが、人命をあずかる部材ゆえ、強度に不安を覚えたなら早々に現役引退となります。

WOODPROは創業以来、杉足場板の販売やリースを行ってきましたが、クタクタ、ボロボロになって返ってくる板も多く、それらはずっと不良材として廃棄されるしかありませんでした。



もったいないのお
なんとかならんのかのお...

ummm....

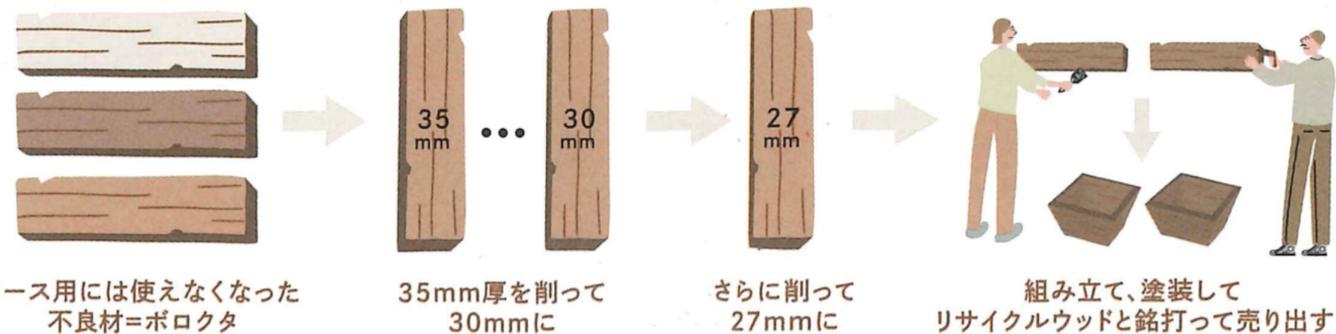
毎日ようにたくさんの足場板が燃やされるのを見て、「もったいないのお、なんとかならんのか。」とは先代の口癖でした...



先代

【1999～】足場板のリユーススタート

新規事業として始めたエクステリア商品の材料に足場板をリユースして使い始める。ウッドデッキやフェンスの関連商品であるウッドプランターの原材料に。



リース用には使えなくなった不良材=ボロクタ

35mm厚を削って30mmに

さらに削って27mmに

組み立て、塗装してリサイクルウッドと銘打って売り出す

2000年からWEBで販売するも、ネットショップはまだ誕生期簡単には売れない時代じゃったんじゃ。



【2003～】古材そのままの味わいを求める動きが始まる

不良となった足場板を削らず、古びた雰囲気を活かした内装づくりをする動きが出始める。手間暇かけて味わいを残した足場板古材が素材として世の中にデビュー。



【2010】味わいのある家具づくりに発展

内装用の素材としての販売も増える一方、それに合うインテリア小物や家具の商品開発が始まる。



野焼きが禁止に!(2001)

これまでタダで燃やしていた不良材が突然「産業廃棄物」となる。

自社だけでのリユースを開始

取引先の
リース会社

不良材の廃棄に高額な処理料が発生!これまで野焼きしていた杉の足場板の処分に高額な産業廃棄物としての処理料が必要に。どこの取引先にしても頭の痛い問題でした。



「メーカーは売りっぱなしではなく最終処分まで考えるべきだ!」



「一方で木製品は自社焼却か産業廃棄物にしかならない。」



「金属はリサイクルの原材料として再利用できる仕組みがある。」



「そうは言ってもどうもならないだろうけどね。」

WOODPRO

原材料が自社だけでは足りなくなる!リユース商品の販売増に伴い、原材料(不良材の杉足場板)が自社だけでは間に合わなくなる。



「実は弊社ではそれを原材料として有効活用してるんです。」



「良かったら、御社の排出される不良材も引き取りましょうか?」

取引先と一緒にリユースする仕組み



業界みんながHAPPYなリユースの仕組み

不良材の廃棄に高額な処理料が発生!これまで野焼きしていた杉の足場板(不用材)の処分に高額な産業廃棄物としての処理料が必要に。どこの取引先にしても頭の痛い問題でした。



【2022】リユース、リサイクルに取り組んで20数年

リサイクルからリユースへ
そしてアップサイクルへ

廃物や使わなくなったものを、新しい素材やより良い製品に変換して価値を高めるUpcycling(アップサイクル)を本業として取り組んでいます。



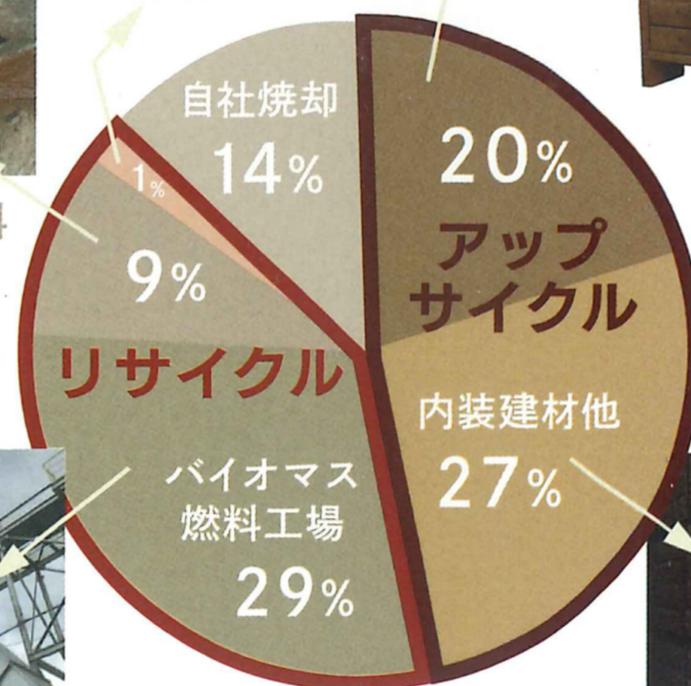
杉足場板の再利用率

年間の消費量(2019~2021)=平均700トン



木層ストーブ燃料

その他



家具インテリア商品



バイオマス燃料工場



廃材の森

さらに多くの人とアップサイクルを進めていくために、本社資材置き場の一角を「廃材の森」として整備。あらたなコミュニティの場としてたくさんの方が廃材アップサイクルに参加できるようになりました。



WOODPROは、足場板古材のリユースのパイオニアとして、これからも素材の魅力の発見と可能性の追求を目指していきます。



WOODPROの目指すもの

日本の杉がある豊かな暮らし

現在、国内で使われる足場板は、ほぼ100%が日本の杉で作られています。日本人にとって一番身近な素材である杉を、現在の暮らしにフィットするようにアップデートしていく。

日本の杉のある豊かな暮らしでサステナブルな社会に貢献していく。それがWOODPROの目指すものです。

創業時からの生業は足場板のリース業、必要な時に必要なだけ借りていただき、必要とあれば買取りしていただく無理と無駄のない事業。そんな足場板をとことん使い、アップサイクル、リユース、リサイクルするのが本業です。

杉は柔らかく傷つき易いので業界では家具やインテリアの素材として敬遠されてきました。内装建材においても和のイメージが強く、洋風化した現代のライフスタイルの中、多くの店舗等では出番がありませんでした。

そんな素材と真正面から向き合ってきたWOODPROは、それを原材料として本気でものづくりをしています。

非常識を常識に変える、それが建設現場でボロクタになった杉足場板の再生（アップサイクル）事業です。再生には多くの人手と時間を要しますが、商品として新たな価値を付加することでサステナブルな仕組みとなりました。

しかしながら経年変化は時間が作り出すもの、だから原材料となるボロクタの杉足場板の供給には限りがあります。

現在原材料は同業者の協力もあって日本全国からWOODPROの広島の工場に集積されます。

産業廃棄物となる杉足場板を有償買取りすることで、安定供給を実現。業界の産廃処理にも貢献しています。

海外のものを否定する訳ではありませんが、地域のもの、不用となったものに目を向け、日本のものを使うことで地域が潤い循環していくという基本的なことの大切さに気づききっかけになって欲しいと思っています。

「モノの命のある限り、使い切る!」の精神で、手間暇かけて古材に新たな命を吹き込む、広島の片田舎の小さな企業の取組みが、豊かな暮らしのヒントになれば幸いです。

さまざまなSDGsな取り組み



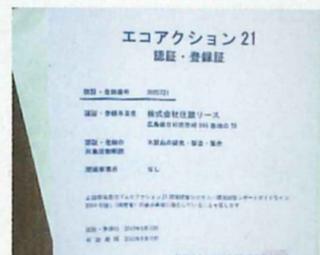
高齢者の積極採用(2004~)

リユース事業に取り組み始めた当初から、WOODPROは高齢者の積極採用を進めてきました。2022年、本社工場スタッフ総勢67名の内、60歳以上が28名(42%)。地域の雇用にも貢献しています。元気に働く高齢者の姿は若い世代のいい刺激でもあります。

本社の高齢者採用率

60歳未満 58%

60歳以上 42%



エコアクション21(2010)

「環境への関わりに気づき、目標を持ち、行動することができる」中小企業としていち早く環境マネジメントに取り組んできました。



木っ端の販売によるチャリティー(2011~)

端っこに「波釘」が撃ち込まれているため、リユースできない木っ端。ペンキが塗られていて個性的で、店舗などのディスプレイにも活躍する人気者です。東日本大震災の起きた2011年に誕生したWOODPROの実店舗では、この木っ端を販売して売上をチャリティーとすることに。東日本大震災、西日本豪雨災害など、木っ端の売り上げはさまざまな災害のチャリティーとして、寄付させていただいています。



おが粉の再利用(2012~)

新材のおが粉は県内の牧場に引き取られ、敷き藁として使われています。敷き藁はやがて堆肥として、さらに農作物の栽培に再利用されます。



井戸水の利用(2014~)

2014年に敷地内を掘削して地下水の採取に成功。それまで上水を使って足場板を洗浄していましたが、以降は井戸水を利用しています。



太陽光発電(2016~)

新工場の屋根に太陽光発電システムを採用。工場で使う電気の一部を太陽光発電から供給、CO2の削減の一助を担っています。